

2012総選挙:各政党マニフェスト(政権公約)のできばえチェック表

※「③政策の具体性・実現可能性」は2倍の配点

チェック項目	配点	民主党	自由民主党	日本未来の党	公明党	日本維新の会	日本共産党	みんなの党	社民党	新党大地	国民新党	新党日本	新党改革
①理念・ビジョン	10	6.00	6.25	5.33	6.00	5.75	6.25	6.00	5.00	3.00	6.50	2.50	3.00
ありたい国の姿(理念・ビジョン・将来像)が示されているか		改革の前進という方向性は示されているが、明確な理念・将来像が伝わってこない。	取り戻す・立て直すということが強調され、「新しい日本」の理念や方向性がわかりにくい。	誰もが希望を持てる未来を実現するとあるが、それを実現可能なものとする政策に具体性と根拠が示されていない。卒原発、脱増税が強調されている。	ビジョンとして掲げられている震災復興、経済の再建等は、ビジョンではなく直面している課題。国のありたい姿に関しては、経済・財政再建、社会保障の構築等5つをあげている。	日本を「賢く強くする」ということが書かれているが、国のビジョンとしては分りにくい。国の課題に関しては、経済・財政再建、社会保障の構築等5つをあげている。	従来の政権を「アメリカいいなり」、「財界中心」を否定しているが、ではどういった方向に国が進むべきか明確なビジョンが示されていない。国の課題に関しては、デフレ脱却、社会保障の充実、エネルギー政策の変換等、押さえられている。	明確なビジョンが示されておらず、課題の認識は行財政改革、経済再生等とされているが、その課題に対する単なる政策集になっている。	ビジョンらしきものとして、「生活再建-命を大切に政治」と書かれているが、抽象的な表現で分りにくい。原発問題、消費税問題等、課題とその対策の列挙になっている。	北海道についての内容は盛り込まれているが国をどうするかビジョンが説明されていない。	ビジョンとして、「1億総中流・安心な地域社会」を掲げ、人の結びつきの大事さ、分かち合う心の重要性が記述されているが、1億総中流の詳しい説明が欲しく、その根拠が少し薄い。国の課題としては、郵政問題、外交・安全保障等、9つがあげられている。	「あなたから尊敬される国」ということが冒頭にありが国のビジョンとしてはわかりにくく、そこへ至った背景も詳細までは不明。	「世界に誇れる日本」を目指す背景が語られていないため、現状の課題認識も「世界に誇れる日本」像も共有しにくい。
ありたい国の姿の根拠・着眼点が示されているか													
国家としての課題が捉えられているか													
②政策の体系性・一貫性・独自性	10	6.50	7.50	5.00	8.00	6.25	6.75	7.00	6.75	4.50	5.50	2.50	5.50
ビジョン・方針・政策が体系化されているか		5つの重点政策の柱を中心に、わかりやすく体系化されている。	重点分野は絞り込んでいるが、政策は幅広く体系化されている。	政策を少数に絞り込んでいるところは評価できるが体系立てられていない。卒原発の代替案も具体性に欠ける。	7つの日本再建と当面する重要政治課題と分けて、体系的に政策を記述している。独自の政策は、国会議員歳費の2割カットと、消費増税の低所得者対策としての軽減税率の導入、18歳までの医療費負担1割等があげられている。	経済・財政、社会保障、国家システム、エネルギー供給体制、外交安全保障の5つの柱で政策をまとめている。独自の政策として目立つのは消費税の地方税化ぐらい。	網羅的に政策は掲げられているが、読みやすく整理してもらいたい。実現可能な独自の新しい政策はほとんど無い。	政策は体系的に整理されている。増税の前にもやるべきことがあるということで、内閣予算局の設置等、いくつか独自の政策が述べられている。	社民党の7つの提案として、政策は体系的に整理されている。実現可能な独自の新しい政策はほとんど無い。	北海道に関する課題について、その政策は示されており独自性もある。ただし、国全体の政策が少ない。	ある程度体系的に示されており、郵政、沖縄と筋は通っているが、候補者の都合がマニフェストの前面に出ている感がある。その他の政策には独自性はあまりない。	独自の政策は豊富に盛り込まれているが、体系立てられていない。	政策が抽象的で具体性に欠ける。他分野にわたり政策が列挙されているが優先順位が不明。また、独自の政策も乏しい。
相互に矛盾する内容が無定見に盛り込まれていないか													
独自の政策が示されているか													
③政策の具体性・実現可能性	20	12.00	10.00	9.33	11.00	8.75	9.00	11.00	8.75	5.50	5.75	4.50	7.00
政策の目標・期限・実現方法(工程)・財源などが明示されているか		5つの重点政策については、主要な項目に期限や目標が設定されているものが比較的多くみられる。ただし、財源をはじめとする実現可能性についての検証が薄く、与党のマニフェストとしては物足りない。	期限や目標はほとんどみられず、スローガンのような内容が多い。ただし、重点分野ごとに法律の制定や制度の変更を明示しており、方向性は具体的である。	数値目標が掲げられた政策もあるが、ほとんどは詳細に語られていない。また、財源根拠なども示されていないことから実現可能性に疑問が残る。	数値目標等が少なく、政策の具体性には少し難があるが、各争点に対する立ち位置は明確。議員定数削減に関する数値の提示は無く、議員報酬2割恒久カットの明記のみ。実行の仕組みに関する記述が無い。	1行程度の抽象的な箇条書きがほとんどで、具体的な中身が良く分らない。具体的な数値目標は議員定数と報酬のみ。実行の仕組みに関する記述が無い。	原発、消費税、TPPそれぞれ反対の立場は明確であるが、財源も含めその代案の具体性に乏しい。財源として当て込む、大企業の内部留保も、現実的なものか疑問。実行体制、プロセスについても記述なし。	議員定数・給与の削減、埋蔵金の発掘推定額、10年間で5割所得アップ等、意欲的な数値目標が示されているが、実現可能性の十分な説明が無い。主要な争点に対する党としての立ち位置は明確。国家戦略会議等、実行の仕組みは幾つか提示している。	原発、消費税、TPPそれぞれ反対の立場は明確であるが、その代案の具体性に乏しい。財源に関する記述もほとんど無い。2020年に食料自給率50%が掲げられているが、その具体的な手法の提示が無い。実行体制、プロセスについても記述なし。	数値目標や実行手法などが明示されておらず実現可能性が不明。	国会議員の定数削減以外に数値目標を示されたものがほとんど無く、具体性に欠ける。実行体制に関する記述も無し。	独自の政策は豊富にあるものの実現手段や財源根拠などには触れられていないため、実現可能性は不明。	政策の目標や実行過程が明らかにされておらず実現可能性が不明。
達成度・成果の事後検証は可能か													
目標・政策の実現可能性について、合理的な説明がされているか													
実行体制・実行プロセスは示されているか													
④国民起点度	10	7.75	6.00	2.67	8.25	4.50	3.75	5.50	2.50	3.50	3.50	5.00	4.00
読み手にとってわかりやすい工夫はされているか		グラフや写真を活用して見やすい。テキスト、白黒反転、音声、点字などの多様な形態での配信は評価できる。	ホームページでは、リンクをうまく活用して詳しい内容をたどれるように工夫しているが、全体像がわかりにくい。iPhoneアプリでの配信は新たなメディアの活用として面白い。	結党が直前であったこともありマニフェストの発表が遅すぎる。急ごしらえでわかりやすい工夫まではみられない。	アニメ(動画・イラスト)子ども向けのマニフェストなど、わかりやすく見せる工夫が光る。	維新八策の柱を示して、国民の意見を聞きながらブラッシュアップしていくスタイルはよい。ただし、その過程で方向性にブレがみられること、とりまとめが遅れて論点ペーパーのような仕上がりになっていることがマイナス点。	テキスト・文章中心の読み物となっており、じっくり理解するにはよいが、概要・ポイントがわかりにくい。	概要版はイラストを使ってわかりやすい。フェイスブックを使って双方向のやり取りを進めようとする姿勢がみられる。	各争点に対する立ち位置は明確であるが、全てNOで、その代案の具体性に乏しい。財源に関する記述もほとんど無い。また、有権者に政策を分り易くしらせる姿勢が欲しい。	ホームページ上へ政策を掲載しているだけで、その他の情報発信手段に工夫が見られない。	ホームページでスライド版を掲載しているが、テキストばかりのため効果をあげているとは言い難い。	動画などを活用した政策の説明は評価できるが、各政策の中身についてはあまり語られておらずわかりにくい。	文字表記が多く読みづらい。また、ホームページ等による情報発信にも工夫があまり見られない。
マニフェストの配布・周知の工夫はされているか													
策定過程において国民の提案を組み込むプロセスを有しているか													
計	50	32.25	29.75	22.33	33.25	25.25	25.75	29.50	23.00	16.50	21.25	14.50	19.50
100点換算	100	64.50	59.50	44.67	66.50	50.50	51.50	59.00	46.00	33.00	42.50	29.00	39.00
総括コメント		前回のマニフェストと比べて具体性で大きく後退しているが、マニフェストの形式を整えようとする意欲はまだ見られる。	前回同様、スローガンが中心で従来型の公約。また、重要政策で立ち位置も明確で、前回からの進歩が感じられない。	マニフェストの発表が遅すぎる。有権者に政策を提示し、政策で判断してもらおうとする意識が不足している。	数値目標等が少なく、政策の具体性には少し難があるが、一番有権者を意識された作りになっている。「子ども子育てマニフェスト50」は、子ども重視を示した斬新な取り組み。	政策のタイトルのみで細かい内容の説明が無い。また、有権者への分り易さも、意識されたものになっていない。代表、代表代行の発言が時系列で変わり、マニフェストそのものへの信頼感も疑問。	各争点に対する立ち位置は明確であるが、全てNOで、財源も含めその代案の具体性に乏しい。また、有権者に政策を分り易くしらせる姿勢が欲しい。	政策は比較的、具体的に提示されているが、国の進むべき方向、ビジョンに対する詳しい説明が無い。また、有権者を意識した見易さの工夫が必要。	各争点に対する立ち位置は明確であるが、全てNOで、その代案の具体性に乏しい。財源に関する記述もほとんど無い。また、有権者に政策を分り易くしらせる姿勢が欲しい。	北海道に特化した政策内容だが、日本全体のビジョンが不明。また、インターネットによる情報発信も工夫が求められる。	郵政、沖縄と政策に筋は通っているが、政策の具体性に欠ける。動画など情報発信には工夫がみられる。	政策に独自性はあるが実現可能性や政策の根拠が不明。動画配信など情報発信には工夫がみられる。	政策が抽象的で具体性に欠ける。他分野にわたり政策が列挙されているが優先順位が不明。